

要旨

1. はじめに

現在のシステム開発を取り巻く環境は、多様なビジネス要求の変化に見舞われている。

IT部門が「システムがビジネス要求の変化に対応する」ために本研究グループでは、次世代のIT部門のあり方についての研究を行った。

2. IT部門の問題

当研究における、IT部門の問題は主に以下の内容となった。

- ・これまでの保守開発プロセスが限界に来ている

① 保守開発の割合が増加している

基幹系システムの整備が一段落している状況では、保守開発の重要性が高まり、それをいかに早く進めるかが大きな問題になっている。

② 既存システムの巨大化

昔は、自社の全システムについて詳しく知っている人がいたが、今ではそういった人材は皆無。システム開発担当が調査工数の増加で困る。

③ 組織の壁がもたらす弊害が顕在化している

ユーザ企業のIT部門と、SIベンダという企業間の壁（発注者、受注者との関係性）。開発担当と運用担当の壁。

- ・最近の企業システムは頻繁に拡充・改修が求められる

カットオーバー時点で要望を満たすシステムであっても、利用を続けていく中で利用者から多くの改善要求が挙げられてくる（不満を抱くようになる）。この不満を解消するために、迅速なシステムの拡充・改修が求められる。また安定稼働も同時に求められる。

3. 次世代の開発と運用のプロセスを考える

<従来システムの内製化>

各企業によって細かい体制は様々だが、プログラムを組み込みアプリ運用する開発部隊と、インフラ・サーバを管理・運用する運用部隊とわかれて、プロジェクトマネージャーやリーダークラスの管理者が2つの部隊を管理しているといった内製化が一般的と思われる。

ただ、既存の内製化ではシステムも人も全て自社で管理し、まかなっているため、会社の人件費やシステム管理費といったコスト増の問題、または人にシステムがつく属人化といった問題がある。

<次世代IT部門の内製化対策>

- ・対策①：サーバのクラウド化

サーバ管理をクラウド化して外出しにすることにより、社内でのサーバの管理（障

要旨

害管理、資産管理)がなくなる。

この対策だけでも、社内のリソース負担は大幅に軽減されると想定される。

・対策②：システム監視業務の外部委託

24時間稼働のシステムで、すべてを自社でまかなうのは非常に難しい。まして片手間に疲弊しきった社員が行ってしまうと、アラートの見過ごしや、対応によるさらなるミスを誘発する恐れがある。

監視体制が整っているプロ集団に任せることも一つの策と考える。

・対策③：サポート窓口・ヘルプデスクの外部委託

一歩踏み出して、ナレッジの蓄積、切り分けマニュアルを作成し続けることで、実現可能。問合せの度に止まっていた開発/運用担当者の手が解放される。

時間とコストがかかっていた業務・システムを、管理権を社内に持って専門担当に委託することによって、社内IT部門の体制に変化が起きる。その結果、IT部門の社内SEが開発/運用業務を兼任した体制を構築することが可能となる。

4. 次世代に向けての施策

社内SEの役割を見直し、開発も運用も兼ね備えた技術・知識の習得を内製化することで開発スピードが加速し、企業に沿ったシステムの構築が可能となるが、一方で新しい技術を取り入れようとする機会の損失にもつながる。

野球やサッカーなどのスポーツチームは有能な選手を獲得するために、ありとあらゆる策を講じているが、IT部門においても同様の手法が可能であると想定する。

例えば、外部のエンジニア(例:フリーエンジニア)といった最新技術を習得したメンバーを部内に取り入れることにより、新しい技術の展開が望めると考える。

また、社内公募やフリーエージェントなどの制度を活発化させて、部門間のジョブローテーションを実現させることで、部門間の壁を取り払う。

5. まとめ

IT部門の変革を遂行するために「組織の変革」「人の変革」「文化の醸成」が必要であると考える。

そのためには、各個人が長所や適性に合った業務内容をそれぞれ実施することで、業務にやりがいを持たせることができれば、IT部門が変革し、各個人のそれぞれの「幸せ」につながると提言する。

※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。